

平成27年度 ふくしまから はじめよう。学力向上のための「つなぐ教育」推進事業の推進地域の取組

拠点校名	矢吹町立矢吹中学校		
推進協力校名	矢吹町立矢吹小学校	矢吹町立善郷小学校	矢吹町立中畑小学校
	矢吹町立三神小学校	(矢吹町立矢吹幼稚園)	矢吹町立中央幼稚園
	矢吹町立中畑幼稚園	矢吹町立三神幼稚園	

『つなぐ教育』から「やぶきっ子」の夢の実現へ

取組の内容

1 はじめに

矢吹町は、平成26年度から2年間「つなぐ教育」推進事業に取り組んできました。学校や家庭、地域が連携し、児童生徒の学習習慣・生活習慣の確立と学力の向上を図り、児童生徒の夢の実現や、本町・本県の未来を担う人材の育成を図ることを目的としています。矢吹町ではさらに、読書習慣の確立を含めた3つの習慣を身につけた児童生徒の育成に町ぐるみで取り組みました。5年前の東日本震災及び東京電力福島第一原発の事故を経て児童生徒の生活・学習環境の整備、家庭や地域のつながりの大切さを確認し、子どもたちの輝かしい未来と希望の実現に向け、教育力を高めることを目指した2年間の取組を紹介します。

2 事業推進の核となる4つの提言

平成11年に学校と地域が協働し創設された「矢吹の教育を考える会」が中心となり、生活習慣・学習習慣の改善に町全体で取り組んできました。

平成26年1月に「子どもの学びの習慣化のために(4つの提言)」(資料1)をパンフレットにまとめ町内全家庭に配付しました。

町内の全児童生徒とその保護者にアンケートを実施し、結果を分析した上で、児童生徒の実態、保護者や学校・地域の願い、家庭や地域の役割について提言したものです。

矢吹町の「つなぐ教育」は、これら「4つの提言」の具現化を目指し取り組みました。

- 提言1 家庭で勉強する習慣を
- 提言2 食事や睡眠などを適切にとる(早寝・早起き・朝ご飯)習慣を
- 提言3 テレビやゲーム、携帯電話、パソコンなどの使用はルールを決めて
- 提言4 読書を楽しむ習慣を

資料1



3 昨年度の取組から

「つなぐ教育」という名称は浸透しましたが、目的や内容については一層理解を深め、推進組織が主体となった取組が必要であるとの反省から、今年度は次の3点に重点を置き事業を推進しました。

- 町の取組として「つなぐ教育」を児童生徒・保護者・地域に広報していくこと。
- 推進体制の見直しと教員の資質・授業力の向上を図ること。
- 「4つの提言」を柱に幼・小・中12年間を発展的につないだ生活習慣・学習習慣・読書習慣づくりに向けた共通の具体的な取組をすること。

4 今年度の取組

(1) 推進体制の見直し(資料2)

昨年までは1つの部会で行っていた生活習慣づくり・学習習慣づくりを2班構成で分担して取り組むことにしました。同日に同会場で行ったので、各々の取組状況を確認しながら作業を進めることができ、大変効果的でした。

(2) 町全体への普及活動

- ① 取組状況を定期的に町広報誌へ掲載しました。
 - ② 「ノーメディアデー」を町内で毎週水曜日に統一して取り組みました。
- また、『のぼり旗』を作り啓発活動に活用しています。

資料2



③ さまざまな本の中から、幼・小・中の子どもたちに読ませたい本100冊を選定し、『矢吹こども読書100選』というパンフレットにまとめました。学年で20冊を読破した児童生徒を町が表彰しています。さらに、町に2名配置されている学校司書と各校の司書教諭が連携をとり、学校図書館の活性化に取り組みました。その中で学校司書のスキルアップ研修や読書環境整備について情報交換を行いました。その結果、学校図書館の利用者数、貸出し冊数とも大幅に増え、読書好きの子どもたちが育っています。

(3) 町立幼稚園も取り込んだ「つなぐ教育」の展開

すでに各校では、学習規律や授業に臨む構えを「学習のきまり」として習慣化しようと実践しています。自校化され実践している内容から、9年間を通して身につけるべき不易な学習のきまりを5つ選び、「矢吹型 やぶきっ子 まなびのフォーム」(資料3)としました。町内幼稚園にも配付し、取り組んでいます。

矢吹町の全ての子どもたちが行動化できることを、目指します。

(4) 望ましい生活習慣づくり

今年度の第1回アンケート調査から、テレビやゲーム、携帯電話等の情報端末器に触れる児童生徒の割合・時間がが多くなっていること、しかも低年齢化している傾向がわかりました。これらの理由から今年度は、提言3を重点項目として「ノーメディアデー」の実施に取り組みました。

- 町内4小学校で提言3に関わる教育講演会を実施しました。
- 生徒と保護者が意識を高める目的でメディアとの関わり方に関する標語の募集を行い、掲示と啓発活動を行いました。

(5) 望ましい学習習慣づくりと「つなぐ教育」

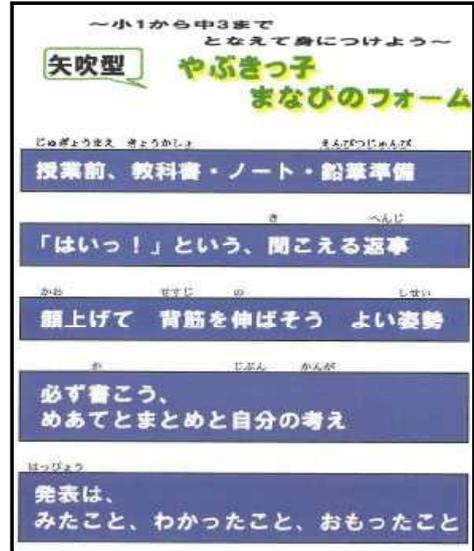
校種・学校・学年を問わず、12年間の一貫した取組を町ぐるみで行うことで、今まで各校が実践したことを共有化し、1つにまとめる重要性を確認しました。授業では、課題やまとめを囲むチョークの色、ノート指導、学習規律、家庭学習の在り方などについて、統一した内容を精選し、段階的に共通実践をすることができました。

(一部は平成28年度4月からの実践となります)

特に、中学校数学科教員が町内4小学校に出かけ、習熟度別学習やT・Tで小学校での授業を行ったことは児童の学習意欲を高めるとともに、小学校教員にとっても系統的な学習指導の内容と方法を学ぶよい機会となりました。

- ① 「やぶきっ子 まなびのフォーム」の作成
- ② 「矢吹型家庭学習の手引き」(資料4)の作成
- ③ 小中交流連携授業(算数科)43回
- ④ 「矢吹型授業スタンダード」の実践

資料3



資料4



成果と今後に向けた取組

【成果】

- 幼・小・中の教員が連携し組織的に取り組んだことで、「つなぐ教育」の重要性を理解し、事業にあたることができた。
- 生活習慣・学習習慣の確立に向け「矢吹町全小・中学校で『つなぐ教育』に共通に取り組んでいくこと」を各校で保護者に説明した結果、積極的な取組をする家庭が増えた。
- 「つなぐ教育」の目的を達成するための方法について、再編成された推進体制が機能できた。矢吹町の幼小・小中と幼幼間・小小間の共通理解・共通実践が必要であり、そのための共通した取組ができたことで、次年度にもつなげていける確認ができた。

【今後に向けた取組】

- 年度当初に町教職員に、「つなぐ教育」の目的・体制・方法を説明し、人が変わっても、実践に深まりと広がり期待できる取組を行う。
- 新入生説明会・各校・各園保護者会で、町教委から「めざす子ども像」、「つなぐ教育」について説明し、啓発活動として効果のあるよう取り組んでいく。
- 人が変わっても「4つの提言」を核とし、ぶれることなく、「つなぐ教育」を継続していく。

保存版 子どもの学びの習慣化のために

【学習習慣・生活習慣の確立】～家庭との連携を通して～

4つの提言

子どもたちの健やかな成長のために、
以下の4つについて提言いたします。
平成26年

矢吹町教育委員会
矢吹町学力向上推進支援会議
矢吹町の教育を考える会

提言1 家庭で勉強する習慣を

家庭生活の中に学習時間を位置づけ、宿題プラス「自主学习」などといった形で、学習を始める時刻や学習する時間を決め、「学ぶ」習慣の定着のために、根気強くしつけていくことが大切です。時間の使い方を本人任せにせず、自主性を尊重しつつも、学習環境を含め、親がある程度管理してあげることも必要です。

【ポイント】

- ・学習する時刻、時間、場所を決める
- ・学習に集中できる環境づくりをする（子どもが学習している時はテレビを消す、机の上は片付けて、まんがなど気になるものを近くに置かない）
- ・間違いを少なくするために（ていねいに取り組ませる、家の人と一緒に見てあげたり、終わった後に確かめたりする）
- ・「家庭学習の手引き」などを活用



提言2 食事や睡眠などを適切にとる（早寝・早起き・朝ご飯）習慣を

子どもたちが健やかに成長していくためには、適切な運動、調和のとれた食事、十分な休養・睡眠が大切です。しかしながら、成長期の子どもにとって当たり前で必要不可欠である、これらの基本的な生活習慣に乱れが見られてきています。食事や睡眠など、家庭での過ごし方について、生活リズム全般を考慮して見直す必要があります。

子どもたちの生活習慣は保護者から大きな影響を受けます。家ぐるみでの見直しに取り組んでみましょう。



【ポイント】

- ・しっかりした内容の食事、質の高い睡眠をとらせることが大切
- ・家族全体で、食事・睡眠等、生活リズムの見直しを（入浴、排便、運動も大切）

提言3 テレビやゲーム、携帯電話、パソコンなどの使用はルールを決めて

テレビやゲーム、携帯電話、パソコン等を節度なく使用することは問題です。便利ではありますが、半面、大きな危険につながる道具であることも理解し、子どもたちをトラブルから守っていく必要があります。

【ポイント】

- ・ノーメディアデーの実施「矢吹町では、毎週水曜日を実践日として推進しています。」（メディアとの関わり方を見直し、メディアから離れてみる、テレビ番組を選んで見る、家族との会話や運動の時間にあててみるなどの取り組みを行う）
- ・使う時間、場所などの約束を決め、しっかり守らせる（子どもの要求に負けない）
- ・各種メディアについては、親自身の関わり方も見直し、子の手本となるようにする
- ・携帯電話等の所持は慎重に
親の責任でルールづくりや使い方の指導を



提言4 読書を楽しむ習慣を

子どもたちにとって、読書はかけがえのない体験です。

読書の習慣化のために、家庭における読書である「家読（うちどく）」の時間の設定や、家族10分間読書の時間の設定など、学校等と連携した、家庭での継続した取り組みが大切です。

読書上手は学び上手にもつながります。



【ポイント】

- ・家庭での読書環境を整えることが大切（「家読（うちどく）」や家族での読書、家庭での読み聞かせ等）
- ・生活のリズムの中に、読書の時間を適切に位置づける
- ・学校との連携の他に、町の図書館等の有効な活用（読み聞かせ会、おはなし会等）

子どもの健やかな成長のためには、周囲の大人の働きかけが重要です。学校で、家庭で、地域でと、矢吹町全体の力を合わせた取り組みを進めていきましょう。

矢吹型

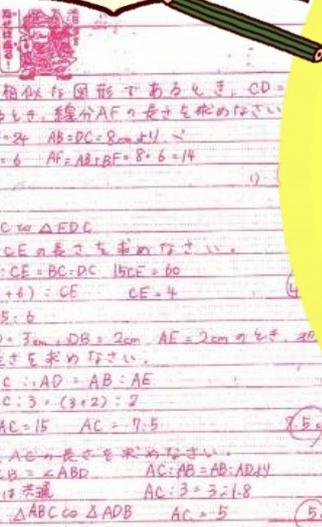
家庭学習の手引き

宿題が終わったら、
こんな取り組みをしてみよう！

中学校 1・2年
時間のめやす(平日)
70分~80分以上



中学校 3年
時間のめやす(平日)
120分以上



めあて

計画的な学習を毎日続けよう。

- =予習 □=復習
- 〈国語〉 ○教科書に出てくる漢字の読み方や、語句の意味を調べる。
□漢字の読み書きや、文法の問題などをノートに練習する。
- 〈数学〉 ○教科書を読み、分からない所をチェックしたり、太字の言葉の意味を調べたりする。
□授業でやった問題やワークの問題を、習ったその日のうちに解き、分かるまでくり返し行う。
- 〈英語〉 ○次の授業で学習する単語や本文をノートに書く。
□習った単語の練習をし、本文を声に出して暗記するまで何回も読む。
- 〈理科・社会〉 ○教科書を読み、難しい語句やわからない語句をチェックし、ノートに書く。
□教科書とノートを見比べて、授業で学習した内容を振り返ったり、重要語句をノートにまとめたりする。
- 〈五教科共通〉 □授業で学習したことをその日のうちにワークやプリントで覚える。また、間違った箇所を大切に、赤ペンで直してテスト前に必ず見直す。

めあて

進路実現のために目標を明確にして学習しよう。

- =予習 □=復習
- 〈国語〉 ○教科書に出てくる漢字の読み方や、語句の意味を調べる。
□入試によく出る漢字を中心に何度も書いたり、古典を声に出して読んだりする。
- 〈数学〉 ○教科書の例題を自分でやってみて、できないところやわからないところを確認する。
□授業でやった問題と同じ種類の問題を多く解き、確実な定着を図る。
- 〈英語〉 ○新出単語の読み方や意味を調べ、ノートに10回以上練習する。
□その日に学習した本文を音読し、学習した内容の英文を日本語に直したり、日本語を英語に直したりする。
- 〈理科・社会〉 ○教科書を読み、難しい語句やわからない語句をチェックし、ノートに書く。
□重要語句をノートにまとめたり、問題を解いたりする。
- 〈五教科共通〉 □授業で学習したことをその日のうちにワークや受験用テキストで整理する。
また、過去の入試問題にもチャレンジしよう。

高等学校などへ

